



ろくたん

六反消防団

－ 中 村 区 －

● 六反学区ってどんなところ？

六反消防団は、明治41年に愛知郡愛知町、愛知消防組第5部として組織されたことに端を発しています。当初名古屋市中区に属していましたが、昭和12年名古屋市の行政区画変更により中村区に改編され、六反警防団を経て、昭和23年に六反消防団として発足した伝統ある消防団です。

● 団長紹介

団長の大倉猛です。

昭和56年に入団し、令和2年に団長に就任しました。地域住民の安心・安全をテーマに、団員とともに消防団活動と地域活動に取り組んでいます。



大倉 猛 団長

● 六反消防団を詳しく覗いてみよう

六反学区は北は新明学区、西は牧野学区及び米野学区と隣接しています。また東と南は中区、中川区との区境になっており、中村区の東南に位置しています。学区南側はマンションや戸建住宅が広がる住宅地となっており、学区北側は名駅地区南側として、オフィスビル・商業施設・ビジネスホテル・飲食店等が立ち並ぶ繁華街となっています。

大都会のと真ん中にありながら、旧内屋敷町内には名古屋市指定有形民族文化財に指定された、9輦のからくり山車のうちの1輦である「唐子車」が保存されるなど、移り変わりの早い都会的な面と昔ながらの文化を大切にしている側面もあり、学区の魅力をより高めています。

また、少子高齢化が進んだこともあり、平成22年には六反小学校と新明小学校が統合され、柳橋にある笹島中学校地に小中一貫の笹島小中学校が開校しました。

現在もマンションを中心に開発が進められており、夜間人口も緩やかではありますが増加傾向にあります。

● 所属団員の特徴

現在団員は21名であり、地域住民以外に学区の通勤者・通学者（医療・消防系専門学校生）も団員として所属しています。団員の中には、可搬式ポンプマイスター・救急マイスター・自主防マイスターが各1名、応急手当普及員が9名、開業内科医2名が所属し、高い専門知識を持った団員も多いことが特徴です。



消防団員による救命講習

● 消防団の取り組み

六反消防団では、春秋の火災予防運動、年末特別消防警戒の広報活動、ポンプ取扱い等の様々な訓練に取り組んでいます。地域との関わりという点では、8月に学区主催で行われる盆踊り大会の広報や警備を担い、9月に開催される防災訓練では、地域住民の方々へAEDの使用法や消火活動、倒壊家屋からの救出方法などの講習を行うなど、学区区政協力委員と連携を密にして活動を行っています。

また、地域行事である秋の花車神明社例大祭・中村区民祭りに参加する唐子車の警備も行っているほか、コロナ禍により2年程開催できておりませんが、40年程前から毎年家族懇親会を開催しています。消防団員だけでなく、その家族も交えて懇親会を行うことにより、家族ぐるみのより深い付き合いができています。

大都会の中にある消防団ですが、地域・団員との繋がりを大切にし、今後も活動していきたいと思います。

将来の団員候補となる笹島小学校4年生に対し、消防団活動を知ってもらう特別授業を担当しました。可搬式ポンプに触ったり、救命ボートの組み立てや広報車の乗車体験を通じて、少しでも多くの子供たちが消防団に興味を持ってくれたのではないかと思います。



お礼の冊子をいただきました！